

# 豊かな社会づくり

社会の一員としての役割と責任を認識し、健康で心豊かな社会づくりと地域社会・国際社会の発展に貢献します。

## 社会貢献活動の考え方

### 住友生命の社会貢献活動について

私たちは進学・就職・結婚・出産・育児・退職、そして病気・ケガ・介護等、そのときどきの様々なライフイベントを経験しながら人生を送っていきます。住友生命は、人生の不安を解消し、自信と希望をもって、力強く未来に進むための大きな「力」となる生命保険をお届けするとともに、社会・地球の一員として、より良い未来を作っていくために、生命保険と関わり合いの深い社会的課題への取組みも大切にしてきました。

当社の社会貢献活動は、お客さまやお客さまにとって大切な方々、そしてより広く私たちを支えてくれるすべての皆さまに対して、未来の様々なライフイベントを楽しみ、力強く乗り越えて、豊かで明るい人生を送れるよう応援したい、そうした思いから、「(1)子育て支援」「(2)次世代応援」「(3)健康増進(介護・医療)」の3つのテーマを重点分野として、積極的な取組みを進めています。

子育て支援

次世代応援

健康増進  
(介護・医療)

地球環境

職員ボランティア(スミセイ・ヒューマニー活動)

#### 1. 子育て支援

子どもたちは「未来を支える社会の宝」です。子どもたちの明るい笑顔は私たちが「強く生きる」ための明日への力になっていくものです。

子育てのすばらしさを伝えたい。社会全体で子どもを見守り育てていく環境を築きたい。未来を託す子どもたちがのびのびと育っていく環境づくりに向けて、挑戦すること、革新することを続けてきた住友生命だからこそできることがあるのではないかと考えています。

#### 2. 次世代応援

輝かしい未来を拓くために、次の時代を担う若い人たちが積極的に行動されることはとても重要なことだと考えています。そうした思いから「次世代応援」というテーマで取組みを行っています。

「世の中を良くしたい」「未来を切り拓いていこう」という若者たちの想いを受け止め、これを実現するきっかけをお手伝いしたいと考えています。

#### 3. 健康増進(介護・医療)

いつでも、どんなときでも、安らかに、すこやかに、そして明るく生きていくことができる未来になるよう、もっともっと支えていきたい。

保障の枠にとどまることなく、人生の「もしも」に備えて、「いきいきと健康で生活するために」「病気やケガをしても負けずに強く生きるために」、そして「障がいを持ったとしても豊かで充実した人生を送るために」という願いを込めて一生涯にわたって応援し続けたいと考えています。

#### 4. 職員ボランティア(スミセイ・ヒューマニー活動)

「人間味あふれ(ヒューマン)、地域社会との調和を図れる(ハーモニー)企業でありたい。」これが住友生命役職員一人ひとりによる社会貢献活動の原点でした。そして、この決意は、地域社会の枠にとどまることなく、グローバルな社会的課題へと、より先進的で柔軟な発想をもって活動の範囲を広げてきました。

当社は、企業市民の一員として、職員の社会貢献意識の更なる醸成を図り、職員一人ひとりが身近な地域社会や、国際社会が抱える様々な課題を解決する一助となることも大切であると考えています。



未来を強くする  
子育てプロジェクト



第9回厚生労働大臣賞受賞団体の活動の様子

### 住友生命の表彰事業

#### ■子育て支援活動の表彰

子どもたちの成長を、地域みんなの力で応援するため、住友生命では、子育て支援に取り組む団体や個人を表彰し、その貴重な活動をサポートしています。

#### ■スミセイ女性研究者奨励賞

女性研究者の研究と子育ての両立を支援するための助成金制度を設けて支援を行っています。

### こども絵画コンクール

未来を担う子どもたちの夢を育み、心豊かな成長をお手伝いしたいという思いのもと昭和52年にスタートした「こども絵画コンクール」は今年で40回目を迎えました。全国各地および海外からご参加いただき、開始からの応募総数が1,079万点を超えるコンクールへと成長しました。

平成12年度からはフランス国立ルーヴル美術館の後援を受け、毎年同美術館にて優秀作品の展示を実施してまいりました。平成28年度も優秀作品を3～4月の1ヵ月間ルーヴル美術館に展示します。

その他、昭和61年度から絵画コンクールを通じて日本ユニセフ協会の活動を応援しており、「お渡しした画用紙1枚につき1円、応募作品1点につき10円」を寄付し、絵画コンクールに応募していただくことで子どもたちが社会貢献に参加できるようになっています。



第39回ルーヴル美術館賞  
「雨でもたのしい学校」 千代谷 宙樹さん(小2)

### 子どもたちの居場所を豊かに～財団・NPO等との協働～

当社では、子どもたちの健やかな育ちと社会全体での子育てを応援するため、「子どもたちの居場所」にスポットをあて、出産前から児童期にわたる切れ目のない支援を行っています。



### 子育てひろば支援

#### ■全国の子育てひろばの人材育成、 コンサル、ネットワークづくり支援

NPO法人 子育てひろば全国連絡協議会

全国約1,000箇所の子育てひろばが会員となっているNPO法人子育てひろば全国連絡協議会の活動を支援しています。



#### 【主な支援事業】

- ・子育てひろばスタッフ養成のための研修
- ・ひろば運営の課題を解決するためのコンサルテーション

#### ■子育て・まちづくり支援プロデューサーの養成事業

特定非営利活動法人 あい・ぽーとステーション

主に定年前後の男性を対象とした「子育て・まちづくり支援プロデューサー養成事業」を支援しています。子育て・まちづくり支援プロデューサーは、企業や社会で長年培われた経験やスキルを活かして、子育て支援の現場や地域を支えています。



## 児童館支援

### 子どものためのNPOとの協働事業(どんどプロジェクト)

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

子どもたちの「遊びを通じた健全育成」のため、全国各地の児童館と多分野のNPOが手を取りあって子どもたちに遊びや体験、創作などの機会を提供する取組みを支援しています。

#### 【実施例】

- ・児童館×環境分野NPO 「自然探検隊」プログラム
- ・児童館×災害支援分野NPO 「防災マップ作り」プログラム
- ・児童館×地域活性分野NPO 「地域とのつながり」プログラム



「自然探検隊」プログラムの様子

## 保育園・幼稚園支援

### スマセイおはなし広場キャラバン

公益財団法人 住友生命健康財団

スマセイおはなし広場キャラバンは、地域の読み聞かせボランティアが保育園・幼稚園を訪問し、子どもたちと本との出会いや地域のふれあいのお手伝いをしています。平成13年度から各地で実施しており、平成27年度には160施設で実施いたしました。これまでに全都道府県の1,855施設の園児におはなしをお届けしました。参加した園児には絵本のプレゼントもしています。



## 学童保育・放課後子ども教室支援



特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール



小学生の放課後の生活の場・居場所である全国の「学童保育」や「放課後子ども教室」等にソフト面でのサポートを行うことで、子どもたちへ多様な体験とかけがえのない時間を提供するとともに、子育て世代が安心して働くことのできる環境整備を目指します。具体的には、学童保育等を対象に「スマセイアフタースクールプログラム」(出張授業)の開催や、「放課後をもっと楽しく! book」の配布、遊んで学べるすごろくやペーパークラフト類の提供等を行っています。

この取組みは、厚生労働省主催の「第4回健康寿命をのばそう!アワード(母子保健分野)」において、厚生労働大臣最優秀賞を受賞いたしました。また「第8回キッズデザイン賞」も受賞しています。



〈プログラム例〉足が早くなる方法



〈ホームページで提供しているペーパークラフト例〉

## 小学校・中学校支援

### 弁当の日応援プロジェクト

全国約1,800校の小中学校で実施されている「弁当の日」の推進を図るためのプロジェクトを支援しています。「弁当の日」の取組みでは、献立づくりから、買出し、調理、弁当詰め、片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身が行います。この取組みを通じ、食の大切さや感謝の気持ち、自己肯定感などを育み、子どもたちに生きる力を身に付けて欲しいと願っています。また家族愛や絆を深めるきっかけになればと考えています。

この取組みは「第8回キッズデザイン賞」で消費者担当大臣賞(優秀賞)を受賞しました。



## 次世代応援

### YOUNG JAPAN ACTION 浅田真央×住友生命

当社は若者たちが本来持っている「世の中を良くしたい」という想い、「未来を切り拓いていこう」とする力を存分に発揮していただくために少しでもお役に立ちたいとの願いから、「次世代応援」をテーマに、新たなプロジェクト「YOUNG JAPAN ACTION 浅田真央×住友生命」を平成26年にスタートしました。

このプロジェクトは、当社のブランドパートナーである浅田真央さんをプロジェクトリーダーに、姉の浅田舞さんをスペシャルサポーターとしてお迎えし、当社の20代の若い職員とともに、「若者が中心となって社会的課題を解決する活動」を支援するプロジェクトです。全国から日本をワクワクさせるたくさんの活動をご応募いただき、特に優れた活動を行っている10組を表彰しています。うち大賞に輝いた3組には、浅田真央さん・舞さんをはじめとするプロジェクトメンバーが、実際の活動と一緒に参加しています。その様

子をテレビやウェブサイト、ソーシャルメディアなどを通じて積極的にお伝えすることで、若者たちの活力を日本中に伝え、日本が直面する社会的課題に対する啓発につなげていきたいと考えています。

当社では、今後も次世代応援をテーマとした取組みを進めていきます。



営承M268

### 受賞団体の活動紹介



商店街で最高のクリスマスを！  
「宇宙未来会議」



子どもたちが繋がるあおぞらきょうしつ  
「CLUB ATTRACTION」



青森の魅力をもっと多くの人に広めたい  
「NPO法人 あおもり若者プロジェクト クリエイト」



大学生による耕作放棄地の再生  
「ForS.」



街を走ってパトロール！  
「NPO法人 改革プロジェクト」



被災地・過疎地の抱える問題を解決  
「気仙沼ゲストハウス」架け橋」

### 若手プロジェクトメンバーの声

YOUNG JAPAN ACTIONについては内定者のときに、CMで活動の存在を知りました。実際に若手メンバーになってみて、様々な応募団体の活動に触れ、同世代の若者の皆さんの、日本を応援する熱い想いや取組みを知り、刺激を受けました。今後も様々な活動を盛り上げていきたいと思えます！

保険金部 保険金室

井上 恵利香(平成27年入社)

ヤングジャパンアクション

検索



普段はニュースでしか知らない社会問題を直接見聞きすることで、その深刻さと課題解決の難しさを実感しました。最初はその課題に立ち向かう方たちを応援したいという気持ちでしたが、現地で共に活動し、団体の皆さんの熱意を知ることで、「もっと団体の役に立ちたい！」という想いが湧き上がり、積極的に行動することができました。団体の皆さんの地元を愛する想いと夢の実現に向かって突き進むパワーを感じ、とても良い刺激を受けました。

教育部 営業教育室 主任

王子田 達也(平成23年入社)

## スミセイさわやか介護セミナー

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

平成3年度から各地の新聞社と提携し、介護保険制度の情報、認知症予防、介護の知識・介助技術など、実習を交えた多彩なメニューを提供しています。平成27年度は全国38都市で開催し、延べ9,900名を超える方々に受講いただきました。



実習の様子

## 認知症サポーターの養成

平成21年度から所定の研修を通じて、これまでに10,285名(平成28年3月末現在)の認知症サポーターを養成しており、金融機関ではトップクラスの実績です。

※認知症サポーターとは「認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者」で、厚生労働省が始めた取組みです。



研修の様子

## 認知症ケアに取り組む団体を支援

電話相談、研修、機関紙発行などの活動を行い、認知症ケアに取り組む団体を支援しています。

【支援先団体】・公益社団法人 認知症の人と家族の会  
・公益社団法人 日本認知症グループホーム協会

## 住友生命総合健診システム(人間ドック)

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

昭和35年に移動診療車による健康診断からスタートした住友生命総合健診システム(人間ドック)は、予防医学の観点から、生活習慣病の早期発見および健康管理を目指し、スタッフ・設備の充実、きめ細かい受診者対応に努め、多くの方に受診いただいています。



## 地域医療貢献奨励賞

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

医療に恵まれない地域における医療の確保と向上および地域住民の福祉の増進を図るため、地域医療に多大な貢献をされている医師を対象とする「地域医療貢献奨励賞」の顕彰を、平成19年度から自治医科大学の後援を受け、実施しています。

## がん患者団体等への支援

がんの早期発見や早期治療、患者さんとその家族の支援に取り組む団体に対して支援を実施しております。

### 【支援先団体】

・公益財団法人 日本対がん協会  
・特定非営利活動法人 がんサポートコミュニティー

## ピンクリボン運動を応援

乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを伝える活動として平成19年度からピンクリボン運動を応援しています。

全国約3万人の営業職員が胸にピンクリボンバッジをつけて、ピンクリボンのメッセージをお客さまに伝えていくとともに、オリジナルのチラシをお配りしています。



© 2016 The Pygos Group



営承P557

また、使用済み切手を回収し換金の上、日本対がん協会「乳がんをなくすほほえみ基金」に寄付しています。寄付金は乳がん検診機器の整備などに役立てられています。

## 「闘わないがん治療:粒子線セミナー」の開催

すべての方々に向けて「最先端のがん治療・粒子線治療」の啓発活動を行っています。

平成20年3月から、兵庫県立粒子線医療センター名誉院長・メディポリス国際陽子線治療センター長 医学博士 菱川良夫先生を講師にむかえセミナーを実施しており、これまでに106回開催し20,000名超のお客さまにご聴講いただいております。また講演のダイジェストと菱川先生のインタビューを収録したDVDも12万枚以上配布しております(平成28年6月末現在)。



「闘わないがん治療」DVD

## がん啓発冊子の配布

がんについての正しい情報を全国の皆さまにお届けすることを目的に、啓発冊子「知っておきたいがんのこと」を国立研究開発法人国立がん研究センター監修のもと作成し、日本全国の皆さまに配布しています。大変好評をいただいております。平成25年3月の発刊から累計発行部数140万部を突破しています。



## スミセイコミュニティスポーツ推進助成プログラム

公益財団法人 住友生命健康財団

スポーツを通じた健康やかなひと・社会づくりを目的に、コミュニティスポーツの新しい取り組みに関する創造的な活動への助成を行って



平成27年度助成金贈呈式

ります。5年を経過した平成27年9月には、記念シンポジウムを開催し、これまでのプログラムを総括するとともに、さらなるステップアップにむけて新たな展開を図っています。

## 職員ボランティア

### スミセイ・ヒューマニー活動



スミセイ・ヒューマニー活動は、「人間味あふれ(ヒューマン)、地域社会と調和を図れる(ハーモニー)企業でありたい」そんな想いから「ヒューマニー(ヒューマン&ハーモニー)」を合言葉に平成4年にスタートした職員参加型のボランティア活動です。

地域社会・国際社会に貢献するために、清掃活動や施設訪問・チャリティバザー、海外の子どもたちに絵本を届ける運動など多岐にわたる活動を展開しており、当社の社会貢献活動の基礎となっています。

海外部門をはじめとして、全ての支社・本社各部室が活動に参加し、24年目となる平成27年度は、212活動、延べ64,357名の職員が活動に取り組みました。

その他にも様々な活動に取り組んでいます。

### 24時間テレビ“愛は地球を救う”協賛

平成18年度から24時間テレビ“愛は地球を救う”に協賛し、全国で募金活動を実施しております。当社独自の取組みとして使用済み切手の回収用ボックスを作成し、当社内のみならず各企業さまにもご協力をいただき、回収活動を実施しております。放送当日にはテレビ局のメイン会場や街頭にブースを設置し、全国各支社・本社および関連会社職員が募金活動を行っています。平成27年度は皆さまのご協力のもと9,311,794円(うち使用済み切手回収による換金額377,075円)の募金を集めることができ、福祉・環境・災害復興に役立てられています。



平成27年 大阪設置ブース

### 全国縦断チャリティコンサート

全国各地へ国内外の一流アーティストによるクラシック音楽をお届けしようと昭和61年にスタートし、平成28年度で30回目を迎えました。開始以来通算1019回の公演が行われ126万名以上の方々にご来場いただいています(平成28年3月末現在)。

これまでに会場でご協力いただいたチャリティ募金は3億円を超え、各地の福祉事業などへの寄付や、タイやベトナムの学校校舎の建設、東日本大震災の被災地への義援金・支援金としてお役立てさせていただきました。

